

〔第176回明専塾(株アドヴィックス)〕

世界一お客様に喜ばれるブレーキ屋集団

設機H8 石村 淳次



アドヴィックスについて

弊社は、2001年、「安全・環境への取り組み」と「グローバル展開」という時代の要請にこたえるべく、アイシン精機、デンソー、住友電気工業という日本を代表するブレーキメーカーの開発・営業部門が融合し、電子制御ブレーキからブレーキパッドまでの開発を手がける世界で唯一のブレーキシステムサプライヤーとして誕生しました。

ブレーキの機能は多岐にわたります。今最も注目されているのは予防安全技術。ABS、ESCはもとよりACC(低速走行・車間距離制御)、AEB(自動緊急ブレーキ)がこれ

にあたります。これらは将来の自動運転の実現にも深く関わる技術で、ブレーキを通じて誰もが安心して運転することのできるクルマづくりを目指しています。また、環境に配慮した製品の開発にも力を入れており、その中でも回生協調ブレーキシステムは、ハイブリッド車や電気自動車に搭載され、クルマの燃費向上に貢献しています。

明専塾について

お話をいただいて、我々にどのようなことができるのだろうと気が引き締まる思いがしました。OBとして学生の皆さんに何を伝えればいいのか、どのようなことが知りたいのかを弊社内で議論を重ね、講演内容を決めました。また、講演内容を考えた上で幅広い経験を学生の皆さんに伝えるために30名いるOBの中から10年目を2名、20年目を30年目を各1名人選し、最新技術の紹介と働き方・仕事の楽しさをお話ししま

した。弊社の知名度はあまり高くないので人が集まるかと心配でしたが、多くの学生の皆さんに参加していただき、講演することができました。

当初は学生のためと思い取り組んでいましたが、資料作成時に自身のこれまでの業務やその当時どのようなことを考えていたかを振り返ることができ、初心を思い出しました。

懇親会では弊社で生産している制御油圧ユニットのカットモデル、ブレーキキャリパを展示し、現物で製品や加工技術などを説明すると学生の目の色が変わり興味深く観察する様子を見て、物を作る喜びを伝えることができて嬉しく思いました。

講演会で伝えたかったこと

学生の皆さんが今後の社会人生活を送るのに少しでも手助けになれば良いと思います。①就職活動で気を付けること、②技術者に必要なことは何かを自分の実体験を元にお伝えしました。①就職活動では、情報は自分の足で取りに行くこと。自ら得た情報は必ず生きてくると思います。明専塾は企業の内情を知ることができると良い機会だと思います。また「自分の意志で入社した」と言い切れる

ようにしてください。社会に出れば大なり小なり必ず壁にぶつかります。自分が選んだ道だと思えば、踏ん張ることができません。②技術者になるためには、常に問題意識(目的を明確にし、結果を予測し取り組む)を持つこと。問題意識を持つことで実業務の課題を抽出し、改善することができるようになります。また、

技術を常に探究し続けること。日々技術は進化しています。技術者としてあり続けるためには、常に勉強が必要です。そして課題をチームや関係部署と共有(人脈・コミュニケーション)することが大切です。これらのことを学生生活・研究の中で、是非、意識して取り組んで欲しいと思います。

終わりに

明専塾で講演する機会をいただき、また、明専会および九州工業大学の皆様にご準備から実施に至るまで多大なご尽力いただき、誠にありがとうございました。明専会、九州工業大学の皆様と学生の皆さんの今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(株アドヴィックス)